

平成二十四年度学力検査

# A 国 語

(九時三十分～十時十五分、四十五分間)

## 問題用紙

### 注 意

- 一、「開始」の合図があるまで開いてはいけません。
- 二、答えは、すべて**解答用紙**に書きなさい。
- 三、問題は、**1** から **6** までで、六ページにわたって印刷してあります。  
なお、問題用紙のほかに別紙があり、表に別紙1、裏に別紙2が印刷されています。
- 四、「開始」の合図で、**解答用紙**の決められた欄に**受検番号**を書きなさい。
- 五、問題を読むとき、声を出してはいけません。
- 六、「終了」の合図で、すぐに筆記用具を置きなさい。

1

次の①～⑧の文の傍線部分について、漢字は読みをひらがなで書き、ひらがなは漢字に直しなさい。(八点)

- ① 謙虚な態度で話を聞く。  
 ② 新しい作品を披露する。  
 ③ ボランテニア活動に携わる。  
 ④ 穏やかな天気が続く。  
 ⑤ ピアノのえんそうを聴く。  
 ⑥ 部屋をせいけつに保つ。  
 ⑦ 郵便物が自宅にとどく。  
 ⑧ 太陽の光を全身にあびる。

2

別紙1の文章を読んで、あとの各問いに答えなさい。(十二点)

(一) 傍線部分①「読んで」にあるが、「読んで」と「いる」とはどのような関係か、最も適当なものを次の中から一つ選び、その記号を書きなさい。

ア、修飾・被修飾の関係

イ、主語・述語の関係

ウ、補助の関係

エ、並立の関係

(二) 傍線部分②「そういう計算は実際やってみるとずれるもんだぞ」とあるが、父さんが北斗の計算は実際やってみるとずれると考えたのはなぜか、その理由を表したものととして、最も適当なものを次の中から一つ選び、その記号を書きなさい。

ア、北斗が、急な登坂、雨や風による影響を十分に考えて五日か六日で到着すると計算していると考えたから。

イ、北斗の計算は、疲れがたまることやコースの状況、天候による影響が十分考慮されていないと考えたから。

ウ、北斗が、初日と最終日を比べて、最終日の方が走れる距離も短くなると考えて計算していると考えたから。

エ、北斗の計算は、平均速度や一日に走れる距離、休憩をとることがまったく考慮されていないと考えたから。

(三) 傍線部分③「長距離」とあるが、「長距離」と熟語の組み立てが同じものはどれか、最も適当なものを次の中から一つ選び、その記号を書きなさい。

ア、好条件

イ、国際的

ウ、松竹梅

エ、自由化

(四) 傍線部分④「これも事前に用意しておいたセリフだった」とあるが、このセリフを北斗が事前に用意しておいたのは、父さんを説得するのにどのような点で効果があると考えたからか、本文中の言葉を使って、二十五字以上三十五字以内で説明しなさい。(句読点も一字に数える。)

(五) 傍線部分⑤「だからお前、一日に百キロ走ることにしたのか」とあるが、冒険の中で北斗が自転車で一日に百キロを走りたいと思ったのはなぜか、その理由を、このように考えるきっかけとなった父さんの話と、一日に百キロ走れると判断した北斗の経験にふれて、本文中の言葉を使って書きなさい。

別紙2の文章を読んで、あとの各問いに答えなさい。(十四点)

(一) 傍線部分(1)「このような温度差」とあるが、これは何と何を比べたものか、本文中の言葉を使って書きなさい。

(二) 文中の  に当てはまる言葉として、最も適当なものを次の中から一つ選び、その記号を書きなさい。

ア、つまり                      イ、しかし                      ウ、だから                      エ、なぜなら

(三) 傍線部分(2)「と」と用法・はたらきが同じものはどれか、最も適当なものを次の中から一つ選び、その記号を書きなさい。

ア、私の考えは君と違う。                      イ、雨が降ると試合は中止だ。                      ウ、彼女は小説家となった。                      エ、私は桃とメロンが大好きだ。

(四) 傍線部分(3)「これまでに説明してきたこと」とあるが、「これまでに説明してきたこと」とはどのようなことか、クジラが備えているメカニズムを具体的に挙げて、本文中の言葉を使って、五十文字以上六十文字以内で説明しなさい。(句読点も一字に数える。)

(五) 傍線部分(4)「内部の温度が上昇すると、クジラはこの尾で、体内に発生した余分の熱を受け取り、水中に放出しているのである」とあるが、このようにすることができるのは、クジラの尾ビレにどのような構造上の特徴があるからか、その特徴を、本文中の言葉を使って、五十文字以上六十文字以内で書きなさい。(句読点も一字に数える。)

(六) この文章の内容に合うものとして、最も適当なものを次の中から一つ選び、その記号を書きなさい。

ア、冷たい海での体温保持も、暖かい海での熱の放出も、季節によって脂肪層の厚さが異なるというクジラ独自の熱交換システムによる。  
 イ、暖かい海で熱を放散する必要が生じたときにはクジラは多量の汗をかき、冷たい海では多量の脂肪を貯蔵した脂皮で体温を保持する。  
 ウ、クジラは、冷たい海の中でも体温を奪われないメカニズムと、体内に発生した余分の熱を水中に放出できるメカニズムを備えている。  
 エ、一定の体温を保持するために、クジラは代謝を盛んにして体全体から熱を放散したり、尾に大量の血液を送ることで熱を溜めたりする。

(次のページへ)

次の文章を読んで、あとの各問いに答えなさい。(六點)

(注1)

俗世間のこと・仏道のことにかかわらず深く信頼して

薬についても尋ねた

医学の心得もなかったので

すべての

ある在家人、山寺の僧を信じて、世間・出世深く憑みて、病む事もあれば薬までも問ひけり。この僧、医骨も無かりければ、万の病に、

(注2)

(注3)

飲みなさい

教えた

その通りにすると

治らないということがなかった

馬がいなくなつて

どうしたらよいでしょう

②

「藤のこぶを煎じて召せ」とぞ教へける。これを信じて用ゐるに、万の病癒へざる無し。ある時、馬を失ひて、「いかが仕るべき」と云へば、

例によつて

納得がいかなかったが

わけがあるのだろうか

近い所には藤のこぶがなかったので

例の「藤のこぶを煎じて召せ」と云ふ。心得がたけれども、やうぞあるらんと信じて、あまりに取り尽くして近々には無かりければ、

探し回つてゐると

見つけたのであつた

結果である

山の麓を尋ねける程に、谷のほとりにて、失せたる馬を見付けてけり。これも信の致す所なり。

(一) 沙石集「より」

(注1) 在家人——出家してない人。

(注2) 藤のこぶ——藤の樹皮にできるこぶのこと。胃腸の薬となる。

(注3) 煎じて——成分を煮出して。

(一) 波線部分「用ゐるに」を現代かなづかいに改め、ひらがなで書きなさい。ただし、漢字の部分はそのまま使用すること。

(二) 二重傍線部分①～④の中には、主語が他と異なるものが一つある。その番号を書きなさい。

(三) 本文の内容に合うものとして、最も適当なものを次の中から一つ選び、その記号を書きなさい。

- ア、ある在家人が飼っている馬は、山寺の僧が住む寺の近い所にあつた藤のこぶまですべて食べつくしてしまった。
- イ、藤のこぶを煎じて飲みなさいと教える山寺の僧は、ある在家人の馬を、谷のほとりにつないだまま忘れていた。
- ウ、山寺の僧は、医学の心得から、藤のこぶを煎じて作った薬を飲むとすべての病が治ることをよく理解していた。
- エ、ある在家人は、山寺の僧を信じて藤のこぶを探し回っているうちに、いなくなった馬を見つけたことができた。

次の『飛込』という詩を読んで、下の各問いに答えなさい。(四点)

## (詩)

(一) この詩では、「あなた」を別のものに見立てて表現しているが、それは何か、最も適当なものを次の中から一つ選び、その記号を書きなさい。

ア、花                      イ、雲                      ウ、縞しよ                      エ、蜂はち

(二) この詩全体をとおして表現されているものとして、最も適当なものを次の中から一つ選び、その記号を書きなさい。

ア、夏の強い日ざしが反射するプールの横に咲く花を、飛び込み台の上から見つめている「あなた」の姿。

イ、入道雲が花のように映っているプールに、大きく響きわたる飛び込みの音に対する「あなた」の驚き。

ウ、飛び込み台にいた「あなた」が、飛び出して落下し、水中に消えてから再び水面に現れるまでの様子。

エ、飛び込み台をけって、プールにつき刺さるように飛び込んでしまった「あなた」が見せる照れた笑顔。

6

「世界の人々と共に考えたいこと」について、あなたの考えや意見を、あとの〔注意〕にしたがって書きなさい。(六点)

〔注意〕

- ① 題名は書かずに本文から書き出しなさい。
- ② あなたが世界の人々と共に考えたいことを具体的に一つ取り上げなさい。
- ③ 世界の人々と共に考えたいこととして、それを取り上げた理由がわかるように書きなさい。
- ④ 取り上げたことに対するあなたの考えや意見が、的確に伝わるように書きなさい。
- ⑤ 原稿用紙の使い方にしたがって、全体を百六十字以上二百字以内にまとめなさい。